

多久スポーツピア陸上クラブ『走り幅跳び』で躍動

《全国大会へ出場!!》

7月20日全国小学生陸上競技交流大会佐賀県大会が、佐賀県総合運動場陸上競技場で開催され、野北亜友美さん（中央校6年）が走り幅跳びでみごと優勝。全国大会への切符を手に入れ、8月23日、神奈川県日産スタジアムで開催された第30回全国小学生陸上競技交流大会「日清食品カップ」に出場しました。結果は、雨という悪コンディションで、思うように記録が伸びず、上位入賞を逃しました。



▶多久陸上競技場で練習中の野北さん

《県大会でも大健闘!!》

8月31日J A杯第29回佐賀新聞学童オリンピック大会陸上競技が開催され、野北さんが、走り幅跳び小学生女子の部で自己ベストで優勝。走り幅跳び小学生男子の部では、緒方太一さん（中央校6年）が2位の結果を残しました。

緒方さんは「1位になれなくて、くやしい。もっと練習して記録を伸ばしたいです」と次の大会へ向けての意気込みを語りました。



▲メダルがキラリ☆と緒方さん（左）と野北さん（右）

クライミングで多久勢が圧倒!九州ブロックジュニアスポーツクライミング選手権大会

8月17日に熊本県立総合体育館で行われた九州ブロックジュニアスポーツクライミング選手権大会で多久市から出場した選手が上位を独占しました。結果は以下のとおりです。

- 小学生女子の部
 - 1位 渡島 夏希さん（中央校6年生）
 - 1位 樋口 結花さん（東部校7年生）
- 中学生女子の部
 - 1位 岸川 弓子さん（多久高校1年生）
 - 2位 渡島 奈緒さん（多久高校1年生）
- 高校生女子の部
 - 1位 岸川 弓子さん（多久高校1年生）
 - 2位 渡島 奈緒さん（多久高校1年生）

渡島夏希さんは「1位だったけど完登できなかったのが残念!大きな大会で完登して優勝できるようながんばります」と意気込みを語りました。

「動きの予想が甘かった。国体に向けてがんばります」と岸川弓子さん。渡島奈緒さんは「ルートの読み違いで思うような大会にならなかった。国体では決勝進出できるようにがんばります」と岸川さんとペアで出場する国体への意気込みを話しました。



▲多久高校で練習を行う、左から樋口さん、岸川さん、渡島夏希さん、渡島奈緒さん

市長コラム

温故創新

Message for citizen

岸川節20周年と歌碑建立

市長 横尾俊彦

「つぎ追いつく 彼の山・・・」で始まる唱歌「ふるさと」は有名だ。歌詞に描かれる光景を追想すると、なんともなつかしい光景が見えるように感じられる。野山の輝き、川のせせらぎ、爽やかな風が運ぶ鳥の声など、想いは尽きない。ふるさとは人々が永年築きあげた営みがある。雨風を越えて継承された貴い地域の暮らしや産業がある。そこに人々がいる。それは全国津々浦々の故郷にあるはず。そんな光景を詠う民謡が全国に伝わるが、多久の岸川節もそのひとつだ。

岸川節記念大会と歌碑・発祥の里石碑除幕式に参列した。歌詞に登場する万五郎さんは、四百年ほど前のこの地で、汗まみれ泥まみれになりながら、こつこつ農耕森林作業に精を出した人と伝わる。その踏ん張りを謡ったのが1番。続く3番には「ふるさとい草鞋も粗末にするな お米育てた親じやもの」と心憎い教訓がさりげなく登場してくる。

事の始まりは20年以上前の杉山嘉隆先生と岸川節の出会いで「世に知らしめ、多くの人に謡ってほしい」の願いから始まった。本歌から掘り出し、磨き上げて世に出し、大会を催して知らしめ、輪を広げ、それを積み重ねて20年となる。

当初の「それ何の歌」という冷やかな反応を奮起の素として頑張られたお陰で、今や全国に知られる岸川節となった。「発掘され、それが盛大に続くのは貴重」と民謡協会役員から伺った。式典では「歌詞は全体で約50あります」と山田区長に聴いたからにはそれを遺すのも嬉しい宿題になった。